

## 畜産

### 1 飼料作物 ～とうもろこしの収穫・調整作業における注意点～

播種、天候の状況にもよるが、早生品種においては、7月下旬頃から収穫調整作業が始まる。良質なトウモロコシサイレージを製造するため、次の点を注意し作業を進める。

- ・刈取り時期は、黄熟期とする。
- ・原料の切断長は10～13mmを目安とする。
- ・水分含量は65～70%が良いが、水分含量が低い（65%以下）場合は、サイロ密度を高めるために短めに切断する。
- ・サイロ密度を高めるため、十分に踏圧し、素早く密封する。
- ・発酵品質の改善、開封後のカビ・二次発酵防止を目的とした添加剤等を効果的に利用する。

表 サイレージの添加物の種類  
（「岐阜県飼料作物奨励品種栽培の手引」岐阜県畜産課（平成25年3月）より）

タイプ	種類	効果
乳酸発酵を促進	乳酸菌	pHが低下し、乳酸が多く作られ、発酵品質や長期貯蔵性が改善される。
	糖・炭水化物	原料に不足している糖を補給して乳酸発酵を促進する。
	酵素・発酵代謝物	酵素によってデンプンやセルソースを糖に分解し、乳酸菌に供給する。
不良発酵を抑制	ギ酸 プロピオン酸	pHを低下し、植物の呼吸作用や不良微生物の生育を抑制する。
二次発酵の抑制	ギ酸	酪酸菌の生育を強く抑制し、二次発酵を抑制するが、耐酸性が強い酵母の増殖を抑えることができないので、プロピオン酸添加よりは二次発酵を起こしやすい。
	プロピオン酸	酪酸発酵を抑制する強さでギ酸に劣るが、酵母やカビの生育を抑える点では優れており、二次発酵の予防に効果がある。
栄養価の改善	尿素、アンモニア	蛋白質含量の向上、消化率の改善や不良微生物の抑制に効果がある。
	ミネラル	トウモロコシはミネラル含量が低いため、炭酸カルシウム、リンカル剤およびマグネシウム剤などで補う。

### 2 家畜への暑熱対策

近年、気温の上昇傾向がみられ、真夏日及び熱帯夜の日数も増加している。梅雨明け以降は、気温が一段と高くなることから、家畜の生産性を低下させないよう暑熱対策を十分に行う必要がある。

なお、具体的な家畜の暑熱対策について、社団法人中央畜産会のHPに暑熱対策の優良事例リーフレットが掲載されているので、参照する。

( <http://jlia.lin.gr.jp/seisan/pdf/leaflet.pdf> )

#### ① 畜舎環境の改善

寒冷紗、すだれ、日陰植物などの日よけの設置、屋根等への石灰の塗布、屋根材の変更及び屋根裏への断熱材設置など、太陽熱が畜舎内に伝わりにくい環境を作る。

また、窓の解放や換気扇等による換気及び扇風機での送風を行い、畜舎内から畜舎温度を下げる。さらに畜体へ直接送風・散水・散霧を行い、家畜の体から熱を奪い体感温度を下げる。

#### ② 飼養管理の改善

密飼いを避けて体感温度の低減を図るとともに、暑熱ストレスを受けやすい家畜（泌乳牛、子牛、肥育牛など）を畜舎内の比較的涼しい場所へ移動する。また、牛においては、毛刈りを実施することも効果的である。

良質で消化率の高い飼料を与え、冷たい水を十分に飲めるようにする。飼料給与は涼しい時間帯に行い、給与回数を増やす。また、必要に応じてビタミンやミネラルを給与し、栄養不足を補う。